

ホタテガイ付着稚貝数が少ない場合の間引き効果

山内弘子

目的

2020年、西湾では採苗器1袋当りのホタテガイの付着数が少ないことから、間引き（袋替え）を控えた漁業者が見られた。間引き（袋替え）作業では稚貝が大きくなるほど落下し易い傾向があり、平均殻長が低下することが分かっている¹⁾。そこで、採苗器1袋当りの付着稚貝数が3万個程度と少なかった久栗坂実験漁場に垂下した採苗器²⁾を用いて間引き効果を検証する。

材料と方法

2020年4月1日に久栗坂実験漁場の幹綱水深10mの養殖施設に垂下した採苗器を用い、同年6月4日に袋替えしたものと袋替えしないものを作成し、7月3日にそれぞれ1袋回収し、袋と流し網をまとめて10%アルコールで固定した。その後、ホタテガイの個体数が100個体程度になるまでプランクトン標本分割器（離合社、5605-E）を用いて分割し、それに含まれるホタテガイを袋替え有無別に殻長を測定し、殻長組成と付着稚貝数を比較した。

結果と考察

袋替え有無別の稚貝の殻長組成を図1に、付着数を図2に示した。

袋替え有無別の殻長組成を見ると、袋替えありが大型であった。目合2分のフルイで選別し、種苗として利用できる殻長6mm以上の稚貝（以下、種苗）の割合は袋替えなしで60.2%、ありで86.3%と袋替えなしが低かったが、種苗数で比較すると、袋替えなしは21,025個体/袋、ありは12,177個体/袋と、採苗器1袋当りの種苗数は袋替えなしが8,848個体多かった。このことから、付着数が3万個体/袋程度と少ない場合は袋替えをしなくても稚貝採取時には十分種苗を確保できると考えられた。

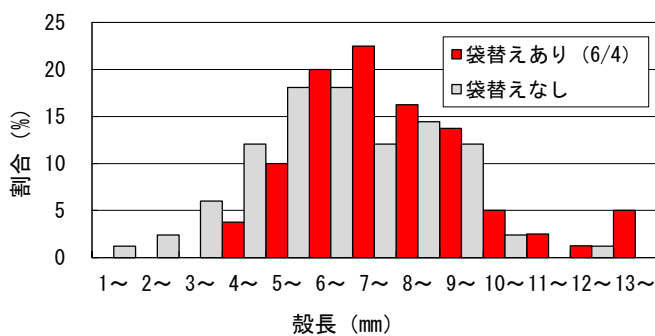


図1. 袋替え有無別の稚貝の殻長組成

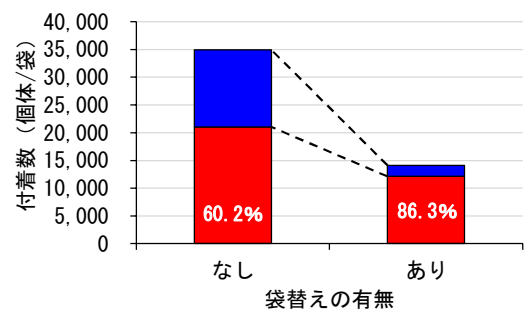


図2. 袋替えの有無別付着数（赤：殻長6mm以上の種苗、青：殻長6mm未満の稚貝、図中のパーセントは稚貝数の割合）

文献

- 1) 山内弘子・吉田達（2021）ホタテガイ採苗器の間引き効果の検証．2019年度地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告，402-408.
- 2) 山内弘子・秋田佳林・小泉慎太郎・吉田達（2022）ホタテガイ増養殖安定化推進事業 ホタテガイ天然採苗予報調査．2020年度地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告，215-244.